千葉有力企業トップに聞く

松山鋼材

社長　向後 賢司 氏

人材育成で経済発展に貢献

―地域を重視した経営を推進しています。

「地域の方々にはさまざまな面で協力してもらっている。地元と共存共栄するのは当然のことだ。地域に多くの社員を雇える企業が減っている中で、地域から一人でも多くの社員を雇いたい。人手不足が問題となっているが、人を大切にすることで、この問題を解決する」

―インドネシア人の研修生や現地法人の社員を『我が子』として扱っていますね。

「1993年からインドネシア人研修生を毎年受け入れている。また現地採用した社員も国内に呼び『日本レベル』の技能習得を進めている。帰国後に現地の産業に貢献できる人材を育成し、事業を通してインドネシアや東南アジアの経済発展に結び付けたい」

―優秀な人材に恵まれている。

「日系企業に就職したい学生が多いが、近辺には日系企業が少なく、北スマトラ大学の卒業生など優秀な学生が採用できる。現地法人の社員の半分は日本語ができ、インターネット電話サービスを使って日本語で国内とやりとりしている」

―新規事業への参入を検討していますね。

「建築物の構成部材の設計・製造だけではなく、建築物全体の設計を始めたい。それができる資質が社員にはあるし、各種資格取得支援制度を設け、組織全体のレベルアップを図っている。建設業界では特に設計者の人手不足が問題となっている。当社の設計力が日本だけではなく、世界で試すチャンスだ」

―東南アジアで積極的に事業を展開する計画はありますか。

「現地に進出するゼネコンをサポートできると考えている。インドネシアの現地法人を通して日本品質の部材や技術力を供給できる」

インドネシア人研修生と社長夫妻

企業データ

▷社長＝向後賢司氏▷所在地＝千葉県旭市飯岡1767、0479・57・3021▷資本金＝4000万円▷従業員＝95人▷設立＝1966年（昭41）▷URL＝http://www.matsuyama-kozai.co.jp/

ドーイチ

社長　川幡 成司 氏

地球環境・人・機械に優しく

―創業は1895年（明28）にまでさかのぼります。

「私で5代目だが、『銅市』という旧社名の通り金物の小売りと卸売りを営んできた。ホームセンター（HC）が国内で台頭する中、差別化できる商材を取り扱おうと、95年から川幡美年子副社長が見付けてきた米国のオレンジソル社の洗剤（はく離剤）の販売を始めた」

―商品の特徴は。

「ベンゼンやキシレン、トルエン、ケトンを含有しておらず、オレンジオイルをベースにしており、地球環境や人、機械設備にも優しいことだ。塗料・インク・接着剤・油のはく離や熱交換器のメカニカル清掃に使用されており、安全性が高いことから、食品工場の油分清掃などにも採用が進んでいる」

「米国では89年に発生したアラスカ沖原油流出事故の事故処理の際に採用され一躍脚光を浴びた。このことがきっかけとなり大手の石油関連会社や航空会社でも使用されている」

―国内での実績は。

「小売りが売り上げの80％で、ほとんどのHCで取り扱っており、主にプロの職人が購入している。95年からの累計で100万本以上の販売実績がある主力の『ディゾルビット』は競合商品がなく、100％のシェアを持っていると自負している。業務用では、大手の航空会社や鉄道会社、自動車会社などに採用されている」

―今後の展開は。

「小売で新規商品の開発に努めてゆく一方、20年までに業務用の比率を50％まで高めることだ。現在、大手企業の工場で採用を前提にテストを行っている。企業の環境意識と安全・安心意識は益々高まっており、この目標は達成できる」

▲主力の「ディゾルビット」

企業データ

▷社長＝川幡成司氏▷所在地＝千葉県船橋市本町1の9の11、047・431・1268▷資本金＝1億円▷従業員＝23人▷創業＝1895年（明28）4月▷URL＝http://www.doichi.com/

東邦オート

社長　秋葉 佑 氏

50周年に「感謝」飛躍の年に

―国内有数のボルボ・カー専門正規ディーラーとして、千葉県と神奈川県に展開しています。事業の状況は。

「当社の2017年の新車登録台数は1126台で過去最高となった。本年度の日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞したスポーツ多目的車（SUV）『XC60』をはじめボルボの優れた製品が日本で評価されている。SUVのユーザーは特定のメーカーにこだわりを持たず、性能の高い車を買い求める傾向がある。他ブランドからの乗り換えも想定でき、今後のさらなる販売増加に期待している」

―現在、中古車販売を含め、8店舗を展開しています。

「商品の良さだけでなく、当社の体制充実も業績向上の要因になった。13―14年に神奈川県に進出した当初は人材の確保などに苦労したが、今では人材が定着し、戦力に育っている。数年前に開店した店舗でも、徐々に顧客との良好な関係が構築できてきた」

―18年11月に創業50周年を迎えます。

「当社にとって節目の年であり飛躍の年にしたい。イベントも企画しているが、まずは50年間事業を継続できたことを、顧客や社員、社員の家族らすべての関係者に感謝を示す機会にしていく」

―人手不足への懸念が高まっています。

「今後さらに深刻化することを考慮し、今年は新卒採用を増やす計画だ。きちんと人とお金をかけて採用活動を進める。既存の社員への教育にも力を入れる。人手不足ではあるが、透明性のある人事評価制度を数年前に導入したことで、定着率は高まっている。若いリーダー候補も育っており、そうした人材には権限をできるだけ委譲している。車のビジネスは変化が激しい。それに対応できる組織を構築していきたい」

人気のXC60

企業データ

▷社長＝秋葉佑氏▷所在地＝千葉市美浜区幕張西2の3の1、043・272・1192▷資本金＝4000万円▷従業員＝130人▷設立＝1968年（昭43）11月▷URL＝http://www.volvo-tohoauto.com

千葉共同サイロ

社長　山根 学 氏

20年に「あるべき姿」を追求

―昨年に設立50周年を迎えました。

「50周年の記念式典を行った昨年4月に『将来ビジョン2020～これからの50年はスペシャルワンを目指して～』を発表した。東京五輪・パラリンピックが開かれる20年に我々があるべき姿をまとめたものだ」

―策定を通して社内の一体感が強まりました。

「自分たちの会社がどうあるべきかを全社員で議論した。意見を共有することでお互いの信頼感が強まった。社員は前回の将来ビジョンを金科玉条のように大切にしてくれているが、積極的な議論により、今回の将来ビジョンはより進化した形となった」

「50周年に合わせた拡大版ファミリーデーや社史、特別版OB会など全て社員が自主的に企画した。私の予想を大きく超える評判をいただいた。個々人が人間的に成長した結果だと考えている」

―ポイントは。

「『家族』という文言を盛り込んだことだ。『家族を大切にしろ』『早く帰れ』『休暇を連続してとれ』と社員にいうが、それは我々は家族に支えられており、家族あってこその仕事だからだ。昨年のファミリーデーは社員の家族と東京湾をクルーザーで一周した。家族を大切にする取り組みを行うことで、帰宅して会社の話題が挙がるようになったと聞いている」

―今後はどのようなことに力を入れていきますか。

「国際化だ。特別英語研修として希望者から選抜した社員を対象に毎週2時間のレッスンを行っている。豪州のグループ会社から研修生を受け入れた際に『ホスピタリティーとマナーを持って接するように』と指示しただけだが休日は研修生の行きたい場所に連れて行くなど全社員を巻き込む形となった。社員がびっくりするぐらい変わった」

機械式とニューマ式のアンローダによる大型船からの効率的な荷役

企業データ

▷社長＝山根学氏▷所在地＝千葉市美浜区新港16、043・241・1231▷資本金＝4億800万円▷従業員＝37人▷設立＝1967年（昭42）4月▷URL＝http://www.kyodosilo.co.jp